

# 中学校分科会

## 基調提案

「現実と向き合い、スポーツの未来を切り拓く礎を」 漆山晶博（滋賀支部）

## 実践提案

「男女共修バレーボール ～カバーし合う関係から、打たせ合う関係へ～」  
野村紀子（新潟 山潟中学校）

## 研究報告

「中学校体育授業における柔道の取り扱い方について  
～形中心の授業と乱取り中心の授業を受けた生徒の変化から～」  
森下博友（和歌山）

## 参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

・今日は貴重な報告ありがとうございました。自分は今、中学校で指導させてもらっているんですが、体育科の年齢層も若く、深い議論もできていないので勉強させていただければと思って参加させていただきました。体育に関しては決められたことを何も疑わずに行ってきたが、その教材が必要か考えることは、「ハッ！」とさせられました。

今日報告されていた授業にたどりつくまでには、大変苦労されたと思います。子どもたちが笑顔で、「楽しかった。勉強になった。」と思ってもらえる授業を創造できるように勉強したいです。（Kさん）

・漆山さんの基調提案は、とても意味のある報告として受け取りました。生活課題、発達課題、教科内容、いろいろ授業づくりの上で柱はあるけれど、生活と文化（教科内容）の2つの柱を大事にしていくことについて熱く報告していただいたと受け止めている。

一方で、問いの立て方、教材づくり、教育課程、学校づくり等、多くの課題も提示していただいた。3日間の議論で深めたい。（宮城・Yさん）

・私の専門はバレーボールなので、矢部先生の実践をもとに、今までの生きづらさを勉強してきました。バスケットボールの細かいルールなどをしっかりと理解して、漆山先生の実践から生きづらさを学びたいと思います。(千葉・Yさん)

・ここまで、いろいろと考えて実践されている方々がおられることに、とても感心しました。その教材の歴史やおもしろさを学ぶという視点が、授業づくりにおいて大切だと思いました。わかるために、何を投げかけるのか、教材を研究する視点についても考えさせられました。(京都・Iさん)

・森下先生の「柔道」と「JUDO」の実践はおもしろかった。こんな実験的な実践は、なかなか出会う機会もなく、決意もむずかしいと思いますが、「やってみる」というところがすごいと思いました。

結論として、「柔道」には無理がある。生徒は「JUDO」に興味を示す。自分としては、ミックスするのがよいと述べておられましたが、そうだろうなと思いました。精神の強調しすぎは危険だと思います。(東京・Yさん)

・最初のバレーの授業についてでは、私は中・高とバレーの授業は正直あまり好きではなかったのですが、それはやはり、ボールの触球数の問題なのかなと思いました。できない子も楽しいと思えるような体育を、私はしたいなと思っているので、みんなが積極的になるには、どうすればいいのかなと考えることが多かったです。

柔道の発表では、私はほとんど柔道についての知識がないので、「柔道」「JUDO」の違いなど勉強になることがとても多かったです。(兵庫・Hさん)

・柔道の実技は疲れた！フーッ。技の構成をつきつめるのは、やはりむずかしいが楽しい。その成功体験を求めて子どもは熱中していくのだろうが、相手を尊重することや、ケガをさせない等と配慮は教えたい中味であった。歴史的背景とともにトータルに考えていきたい。(神奈川・Mさん)

・生まれて初めて柔道着を着て、生まれて初めて柔道をしました。思っていた以上に楽しかったですが、なかなかコツをつかむことができず、苦戦しました。柔道についてこんなに無知な私が、将来体育教師になり、子どもたちに柔道を教えることができるのか、と不安にもなりました。

話を聞くだけでなく、実技をすることで感じるものがたくさんあり、とても良い刺激となりました。今回のこの分科会を機に、もっと柔道について考えていくことができればいいと思います。

(京都・Kさん)

・大学の授業でも柔道をこんなに念入りに教えてもらうこともなかったので、とても勉強になりました。細かいコツなども聞けてよかったです。何よりも技のひとつひとつのイメージや感覚が少し養われた気がしました。ありがとうございました。(千葉・Yさん)